

男女共同参画の 視点からの復興 ～参考事例集～

第 22 版 (追加分のみ)

令和 2 年 12 月 11 日

一 男女共同参画の視点からの復興 参考事例集とは 一

「東日本大震災からの復興の基本方針」の基本的な考え方では、「復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進する」「子ども・障害者等あらゆる人々が住みやすい共生社会を実現する」としており、多様な生き方を尊重し、全ての人があらゆる場面で活躍できる男女共同参画社会の実現に向け、復興に当たっても、男女共同参画の視点が必要です。

復興庁男女共同参画班では、自治体や各地で活躍する方々の参考となるよう、まちづくり、仕事づくり、健康づくりなどの分野に関し、女性が活躍している事例や被災地の女性を支援している事例等を収集しています。

今後も、引き続き事例を収集し、公表していく予定です。



インデックスの凡例



各ページ右上のインデックスの凡例は、以下のとおりです。

各事例で該当する部分は色を濃くして表示しています。

まちづくり	行政と協働し、まちづくり計画の策定・提言、これからどのようなまちに復興していくか検討する取組	 岩手	 宮城	 福島	 広域
仕事づくり	就業支援、起業支援、産業の創出や地域経済の活性化に関する取組	まち づくり	仕事 づくり	健康 づくり	
健康づくり	心身の健康維持・増進のための取組	居場所 づくり	人材 育成	情報 発信	
居場所づくり	孤立を防止するための場づくりや、ネットワークづくり、地域の人が集まるスペースづくりなど、様々な人と交流や情報交換を行うための場を提供するための取組	その他			
人材育成	地域住民やNPO、自治体職員など、復興を担う人材を育成するための取組				
情報発信	復興に向けた被災地の現状を伝える取組や、東日本大震災の記録を残すための取組				

* 上記以外について重要なワードがあるものは、その他の欄を活用し、重要なワードを上書きしています。

目 次

分野	事例	実施主体など
人材育成	¹ 芸術文化活動を通じて、障害者と地域社会をつなげる 中間支援	特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン(AAJ) 東北事務局

※事例が複数の分野にわたる場合は代表的なものに分類しています。

★印の事例は、既に掲載済みの事例ですが、その後の取組状況を追記しています。

115

芸術文化活動を通じて、障害者と地域社会をつなげる中間支援

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン (AAJ) 東北事務局

令和 2 年 10 月現在



AAJ はさまざまな立場の人やグループ・団体が出会い、交流する機会をつくり、社会変革につながる共感や感動を生み出すことを目標に活動している。

取組主体

民間団体

対象者・受益者

障害者等

実施時期

平成 24 年 5 月～

活動地域

宮城県を中心に東北地方へ展開

キーワード

障害者、交流の場、就労支援、人材育成、中間支援

取組ポイント

奈良県発の複数の団体からなる宮城県沿岸部の福祉事業所での障害者緊急支援活動が、やがて被災地に拠点を構え、元に戻すだけの復興支援ではなく、東北の「障害者芸術文化活動に対する新たな価値観」を生み出す環境づくりへと発展させた。

取組の背景・経緯

- エイブル・アート・ジャパン（以下、AAJ）は、東京を拠点に障害のある人たちが表現活動を通じて社会に新しい芸術観や価値観を創ることを目的に、ギャラリーやアトリエ、調査研究事業などを行う団体である。
- 東日本大震災発災後、AAJ は一般財団法人たんぽぽの家（奈良）を主体とする被災地域の障害者福祉事業所の支援プロジェクトに参加し、緊急支援を行っていた。震災後 2 か月が経過した頃には、通所型事業所に利用者（障害者）は戻ってきたものの、震災による様々な影響により、仕事がない状況にあった。そこで、プロジェクトは引き続き 2011 年 10 月から、宮城県沿岸部を中心に障害者の通所型事業所などで、アートによる障害者の「仕事の復興」と「生きがいを取り戻す」ことを目的に、利用者の「表現する場」や「仕事の場」を復活させる活動を開始した。
- 2013 年 4 月、仙台市に東北事務局を構え、宮城県や福島県の被災地の福祉事業所への支援にも活動を広げて行った。そのような中、町の約 37% が津波により浸水した山元町（宮城）を始め、被災地の障害者福祉事業所で商品開発などの支援を続けるうちに、事業を継続していくための運営上の課題や商品として、より魅力あるものにするための課題などがみえてきた。



取組の概要

- 山元町共同作業所（工房地球村）で、震災前から主力商品の原材料だったいちごなどをモチーフにした商品開発やブランド化の支援（いちごプロジェクト）を開始した。2012 年 4 月からは「たんぽぽの家」などと協働し、企業からの助成金などを利用し、障害のある人々の心の拠り所とするコミュニティカフェの開設・運営を支援し、その後もワークショップを通じた商品開発などの支援を行った。
- 引き続き 2013 年は「Good Job! 東北プロジェクト」として、商品をより魅力的にするためにパッケージデザインを見直したり、東北の福祉事業所が自立していくために、デザインや著作権、マーケティングなどをテーマに職員向けに研修を実施したりした。また、地元デザイナーの経験の場や全国のプロデザイナーとのネットワークづくりなど、障害者芸術支援の環境をつくるための活動も同時に進めていった。

- プロジェクト 3 年目となる 2014 年 4 月からはさらに、福祉事業所などからの障害者アートやデザインプロダクトについての相談やそれに関する支援、障害者芸術の展示会の開催など活動の場を広げた。2015 年以降は、たんぽぽの家が主体としていた東北での活動を全面的に AAJ が引き継いでいる。
- 2014 年 6 月、AAJ は宮城県からの推薦を受け厚生労働省が進める「障害者の芸術活動支援モデル事業」に参画。仙台市内に設置された「障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）」において、常設機関として県内の福祉事業所などからの相談対応、障害者芸術支援の担い手向けの研修事業を開始した。



工夫した点・特色

- プロジェクトに関わる組織に登録しているアーティストである障害者たちが震災復興支援に携わりたいという声を発端に、震災後半年余りでアーティストが描いた絵などの作品や商品を販売し、その売り上げを資金の一部として支援活動を行った。
- 上記の作品や商品販売で協働した企業が、それぞれの専門性を生かし、研修事業や復興マルシェ活動でも協働した。
- 直接支援として沿岸部の障害福祉事業所で商品・ブランド開発を行っていくうちに、それぞれの事業所が抱える課題を聞き出し、分析し、課題解決のために必要な組織やデザイナーやマーケティングなどのプロフェッショナルと結びつけ、その後も開発支援を続ける仕組みをつくった。

取組の効果

- 東北には震災までになかったこの分野での中間支援組織として、福祉事業所や障害者個人と、デザイナーなど接点がなかったプレイヤー間での連携、行政や企業、大学など地域コミュニティと協働することができるようになった。これにより、震災によって失った障害者の仕事を元に戻すだけの復興支援ではなく、事業所が自立できるような人材・仕組みづくり、地域連携など、東北の「障害者芸術支援に対する新たな価値観を生み出す環境」をつくるスタートとなった。
- SOUP の活動として、県内の障害者芸術の底上げを図るとともに、県内の各地で展示会を行い、障害者芸術の価値、存在を地域へ伝えることができた。
- 障害者の芸術活動支援モデル事業の施策が注目され、他府県の同様の支援センターや障害福祉課などへノウハウを共有している。

連携した団体の感想

- 被災地の障害者が素敵に生きていくための仕事づくりにつながりました。生きる力をつけていくために、「芸術文化活動」がとても大切だという事を教えていただきました。（特定非営利活動法人ポラリス／宮城）
- 原発事故後、AAJ の支援を受け、障害のある人の力を生かした商品づくりを行いました。魅力ある商品が生まれ、福島復興の一助として活躍することができました。（特定非営利活動法人しんせい／福島）

助成金など支援・協働にかかわる情報

- 武田薬品工業㈱「タケダ・いのちとくらし再生プログラム」
- 中央共同募金会「赤い羽根募金」
- 競輪とオートレース「公益事業振興補助事業 地域振興（東日本大震災復興支援補助）」
- 厚生労働省「障害者の芸術活動支援モデル事業」および「障害者芸術文化活動普及支援事業」

連絡・問い合わせ先

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局

TEL : 070-5328-4208 HP : <http://soup.ableart.org/>

*掲載写真はエイブル・アート・ジャパンからの提供によるもの